



散歩

4月4日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

4月4日のおはなし「散歩」

今日も散歩に出かけよう。いつも決まった道だけれど、ぼくはこの風景を眺めて回るのが大好きなんだ。お気に入りの風景をじっくり眺めながら歩く。ぼくの散歩の話聞いてください。

3421170679番地。それは家を出てからちょうど100番目あたりの目印だ。だらだらとした坂の両脇には古いお屋敷のレンガ塀が並んでいる。

9465764078番地。目印にして2000番目を過ぎたあたりから風景は一変する。階段の多い急坂を上り切ると畑地が広がり突然視界が開けて来る。

4750番目の目印を過ぎてすぐの風景。8888007869番地は、通りかかるたびに、にこにこしてしまう。なんだかちょっとコミカルな印象を受けるのだ。

11110番目の目印を通り過ぎてからの7866285612番地には特別な思い入れがあるんだ。まずそこには昔心から愛した女性の電話番号が含まれている。え？ 笑ってしまうって？ まあそう言わないで。

だって誰もが認めるぞろ目の11111番目の数字7は、多くの人にとってそうであるようにぼくにとっても大事な数字だ。だから一番短い散歩でもぼくはこのあたりまでは来ることにしている。

7はとても個人的で重要な意味をもっている。ぼくの誕生日に関係があるし、家族に良いことが起こる日はいつも7に彩られているんだ。しかも電話番号がなんと9桁も一致している。すごいだろう？

がんばって足を伸ばして、もっと先までいくこともある。

32730番目の目印付近。8189303110番地はぼくの心を不安にさせる。庭先に花を咲かせた邸宅の並ぶ通りで、小綺麗だし、別に嫌いなわけじゃない。けれど、そこにはなぜかぼくを落ち着かなくさせる何かがある。だからここまで来る時は足早にここを通り過ぎるようにしているんだ。

138700番目の目印あたりはお茶目な景色が潜んでいる。2345670001番地。壮麗な建築。手のこんだ細工と堂々たる伽藍。でも建築家の悪戯なのか遊び心なのか、ちょっとした仕掛けがある。わかりますか？ 234567と並んでいて、足りない1がはずれのほうに隠れている。おもわずくすくすと笑ってしまうでしょう？

452070番目の目印を通り過ぎると奇跡のような景色にさしかかる。

7777775086番地。息をのむ圧倒的な眺望。遥かな断崖と溪谷。奇岩。見渡す限りのパノラマ。そこにはぼくの大好きな7がなんと6つも並ぶ。

7が4つ並んだり、5つ並んだりする場所はもっと前にもあるんだけど、ここでは6つも並ぶ。本当は7つ並ぶところがあれば一番すごいんだけど、ぼくがいままでたどりつけた1000000番目の目印までの間には残念ながら、ない。

でもやっぱり落ち着けるのは何と言っても1415926535番地だ。それはおなじみの景色。初めてこの世界に踏み出した時に見た風景。一番近所の風景。最初の一步で見える風景。

ぼくには生まれつき手も足もないし、言葉を上手に喋ることもできない。お日様というとても明るい照明に当たるのも身体に良くないらしい。だからみんなのように外に出ることができない。円周率がぼくにとっての散歩コースなんだ。本やテレビで見たすごい景色をそこに重ねる。

散歩に乗り出す時、ぼくはいつも最初に「円周率3.14-----」とつけて踏み出す。これはもう習慣だ。とても素晴らしい風景がそこから始まる。しかも無限に続くんだ。素晴らしいでしょう？みんなの散歩はどんな感じなのかな。よかったら今度教えてください。

(「円周率3.14-----」 ordered by さんぽ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

散歩

<http://p.booklog.jp/book/47664>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47664>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47664>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.